

令和3年度 研究外部評価（事前評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
21-P3	天然由来材料を活用した FRP 製造技術の開発	13.4	C
研究期間	令和4年度～令和6年度（3カ年）		
研究概要	バサルト繊維、セルロース樹脂等の天然由来材料を用いた FRP 製造技術の開発を行い、用途を見据えた木材等1つ以上の異種材料とのマルチマテリアル化に取り組む。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・本研究の目的やターゲットは適切な設定であると思いますが、その研究内容や目標へのシナリオについては、試験場が有する技術を無理に持ち込もうとしたり、その範囲に限定された計画である事等、計画には無理が感じられます。再度しっかりと計画する必要があると思います。 ・環境に配慮した取り組みで期待できます。目的を「曲げ」だけにするのではなく、バサルトの特性を生かした多用途な目的で研究すると用途も広がると思われます。 ・SDGs への貢献度と開発された板材の機能度、必要性が理解できなかったです。事後評価で判断します。 ・目標値としてかかっている値をクリアすると、マルチマテリアル化が可能になり、その素材の特長をどのように生かせるのか明確にして頂けるとさらに良くなると思います。 ・FRP・木材・CNF 等の天然素材と合成樹脂の素材の強みを活かし、新たな複合材を生み出す事ができればよいと思います。 ・天然素材の木材とセルロースや高性能樹脂等の組合せ、即ち素材の長所（強い・耐熱性・耐久性など）を組合せることで、脱炭素社会・環境負荷軽減・マテリアルリサイクルやSDGs の実現ができればよいと思います。 ・素材の組合せや接着方法など問題点はありそうですが、方向性はよいと思います。試行錯誤して進めていく過程で、思わぬ組合せから思わぬ発見があったり、新しい特徴を持つ素材が生まれる可能性もあり、継続して開発してほしいと思います。 ・ぜひ脱炭素化するような開発をしてほしいです。 ・低価格化を目指してほしいです。 ・最終出口を考えて、必要な性能評価を検討して下さい。 ・バサルト繊維の特長を「売り」にできる成果や用途が出てくるとよいです。 ・技術指導・技術移転先の数値目標の「2件以上」は超過達成を期待します。 ・研究開発する事によって又、過程により、新しい出会い（異業種分野）がある様に思います。 			